


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成30年 8月 17日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第4号	質問議員	3番	井上正文	
件名	災害に強い山づくりを				
要 旨					
<p>7月西日本豪雨の災害は、集中豪雨が広範囲に及び、死者219名、行方不明者10名、重軽傷者369名という被害を出した（消防庁災害対策本部7月27日10時45分発表）。土砂崩れや浸水による住宅への被害も大きく、全壊は3,598棟、半壊3,127棟、一部破損1,898棟、床上浸水14,446棟、床下浸水20,839棟。いまだ避難所での暮らしを強いられている人もいる。</p> <p>今回の痛ましい被害は、あらためて平時の減災対策の重要性を示したといえる。特に土砂災害について、土地の9割が山である山北町が、どのような視点から教訓化するべきかを問うために質問をする。</p> <p>1 平成27年9月、私の一般質問で「災害に強い山づくり」を質問した際に、県が実施している水源の森林づくり事業と林業推進協による一般的施業の集約化を高く評価されていたが、その進捗状況はどうか。また、「山北町一川崎市交流事業」では、2期対策に、都市住民自らの手による山づくりに向け、新たな担い手の育成を盛り込む考えであったが、現在どのようになっているのか。</p> <p>2 今回の災害では、自治体のハザードマップに指摘されている場所の被災が多かった。山北町土砂災害・洪水ハザードマップも700カ所を超える場所が指定されている。昨年9月の山北町地域防災計画の中に「災害に強い町づくり－保水機能の向上」等という文言があるが、「災害に強い山づくり」を入れるべきだと思うがどうか。</p> <p>3 現在、町長は「川崎市木材利用促進フォーラム運営委員会」のオブザーバー会員である。宮崎県や浜松市の強敵はいるが、山北の方が地の利で優位性がある。日本でもトップクラスになるような木材利用を掲げている川崎市にむけ、山北町林業活性化のために営業活動をするべきと思うがどうか。</p>					

- 4 昨年の西丹沢もみじ祭りに、川崎市から40名を超える人たちが参加してくれた。当時の三浦副市長は、「水源林の山北町とはお互いにハッピー、ハッピーな関係を築き上げたい」「できることから交流を更に深めたい」と主張されていた。山北町はこれにこたえるために、定住対策や経済効果を生むような考えは。
- 5 昨年、県の土地水資源対策課が、県の小学校に対して林業の勉強の場を森林組合等に提案し実施した。県の職員は「取り組みを広めたい」と言っていたが、町としてこの取り組みを充実させる考えは。

以上